平成３０年度ユニバーサルデザイン（ＵＤ）教育の取組

１　学校名	唐津市立玉島小学校		
２　所在地	唐津市浜玉町五反田８２３番地		
３　校長名	小森　尚美		
４　学級数 児童生徒数	９学級 ７８人	５　実施学年 児童生徒数	４年 １２人

６　取組のねらい

・いろいろな立場にある人が暮らしやすいような社会にするために、身近なところにある「ユニバーサルデザイン」を探したり、体験活動をしたりして、「ユニバーサルデザイン」についての理解を深める。

・障害のある方やお年寄りとの交流活動を通して、その人たちの立場を理解するとともに、互いに助け合い支え合おうとする態度を養う。

７　取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

(1)他の人の立場になって、物事を考える。

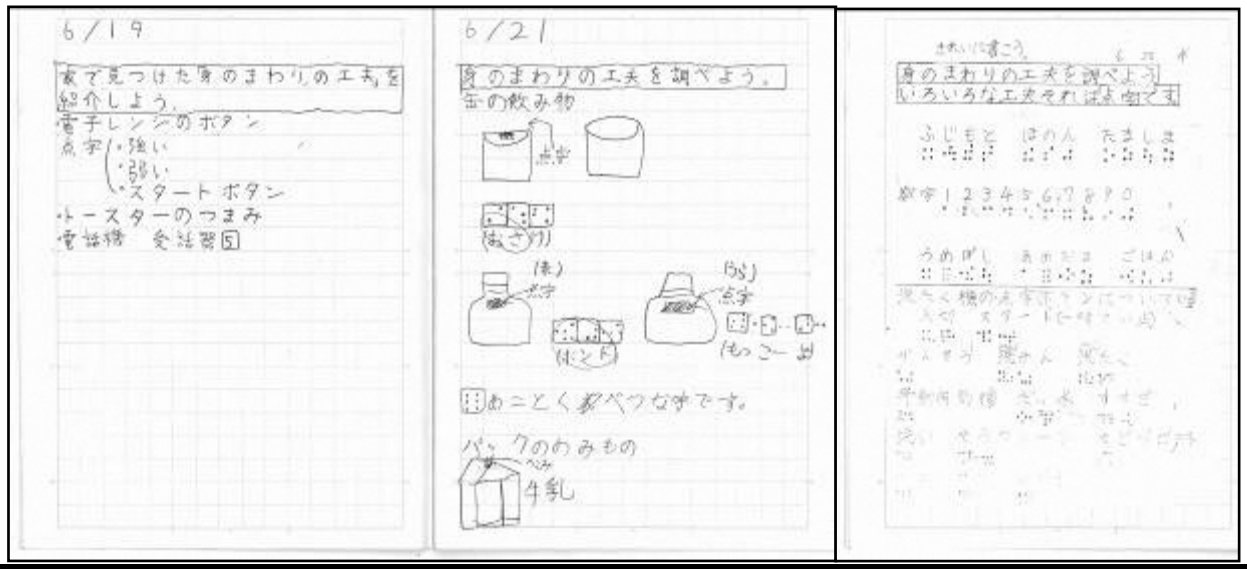
①身の回りにある工夫について知る

身の回りの工夫について調べる活動を実施した。毎日使っているシャンプーやリンス、お金（紙幣や硬貨）、電話やリモコン、そして電化製品や生活に使ういろいろな物(缶のお酒・ボンド・キズリバテープ)についている点字、牛乳パックのへこみなど。

教室で、みんなで見たり触ったりしたものもあれば、子どもたちが家にあるものを調べてきて、それをみんなで紹介し合ったりした。

また、電化製品についていた点字について、書き写して詳しく調べたり、点字の歴史について調べたりして学習を広げた。

②目が不自由な人の生活



【体験活動Ⅰ】

普段は何気なく見たり使ったりしているもののなかに、目が不自由な人や、どこか体が不自由な人、そして生活がしづらいいろいろな人たちのために、さまざま工夫があることが分かった。そして、少しの間目を閉じて、物を触ったり道具を使ったりしてみると、その「大変さ」を感じることもできた。子どもたちは、身近なところにあるいろいろな工夫を知ったり調べたりし、そしてすこし体験したりしながら学びを深めていった。

≪授業後の児童の感想≫

○　今日の 6 時間目は「めづら」でした。目にしょうがいがある人のためにいろんな工夫がしてあることの勉強をしました。実さいに目をつぶって筆箱からとがったえんぴつと消しゴムを取り出しました。何がどこにあるか分かりませんでした。しょうがいがある人は、いつも大変なんだなあと思いました。

○　今日 6 時間目に「めづら」がありました。今日は「目を閉じて」でした。少しの動きをしながら勉強をしました。今私たちの周りには、目が不自由な人もいます。そして、目い外でもどこかが不自由な人がいるということです。中には、みんなと同じような生活がしたくてもできない人もいます。でもそれを助けてくれる人もいます。工夫を重ねるとちょっとでもいいくらしができるということです。

※「めづら」とは玉島小学校における総合的な学習の時間の名称

【体験活動Ⅱ】

体験Ⅰを受けて、もっと理解を深めようということで「アイマスクをつけて目が不自由な人の体験をし、苦労や大変さ、気持ちや思いを少しでも理解しよう」のめあてで、アイマスク体験をした。（一人で道具の出し入れをする。一人で動いてみる。一人で歩いてみる。）

次のアイマスク体験では、ペアでの歩行体験・介助体験を実施した。教室から

廊下に出て階段を通るという体験をしながら、目が不自由な人が少しでも安心できる介助の仕方について考えることができた。

③耳が不自由な人の生活

社会福祉協議会の福祉体験講座の 1 つである「手話講座」を実施した。聾唖者の方と手話通訳の方が教室に来られ、話を聞いたり手話を教えてもらったりした。

手話体験では、「朝・昼・夜」の挨拶や、自分の名前〔苗字〕を一人ずつ教えてもらい、みんなができるようになった。言葉や文字の持つイメージが形となり、それを手や体の動きとして表現する「手話」となり、相手に伝わっていく、また口の形を見て分かることも多いので、相手の言葉や気持ちを理解するためには、手話だけでなく表情も大切だということも知った。

≪授業後の児童の感想≫

○　今日自分の名前やみょうじを手話でできるようにもなり、おぼえることができたのでよかったです。これから、もし耳が不自由な人に会ったら自分の名前を手話でできるように、いっぱい練習してできるようにがんばりたいです。

○　耳が聞こえない人はこんな毎日をくらしていて、つうやくの人も手話をおぼえてとても大変だったろうなあと思いました。今日はいろいろなこと教えてもらったので、これからはそれなどをお手本にして、優しくたいおうしていきたいです。これからも、もっといろいろな手話をおぼえたいです。

④車いす体験

社会福祉協議会の福祉体験講座の 1 つで「車いす体験」を実施した。社会福

祉協議会から車いすを６台貸していただき、ペアで学習した。

事前の学習では、車いすはどんな人が使っているか、どんな時に使うことがあるか、そして、身の回りには車いすを使う人のためにどんな工夫がされているか、どんなところが困ると考えられるか、などについて調べたり話し合ったりした。

当初は体育館にいろいろな物を並べてコースを作って学習するように考えていたが、毎日の生活でよく使っている場所の方が感じやすいのでは、ということで、「児童玄関～職員玄関」の間を使って学習した。「一人で体験」「二人で体験」「介助をする立場」「介助をされる立場」といろいろと変えながら体験することができた。

車いすのための工夫と思っていたスロープや小さな段差が意外と大変だったり、普段は何気なく通っているところが車いすでは難しかったりして、いくつもの発見をすることもできた。そうした中で「介助」の力の有り難さや、安心してもらえる介助の心得なども学ぶことができた。

≪授業後の児童の感想≫

○　車いすは初めてのったので、ふつうは歩いて通る所がちがう場所のように思えました。介助をしてもらっても上手にできないこともありました。最初はどうやって介助をしたらいいか分からなかったけど、やっているうちに本当に車いすを使う人がどんな生活をしているかが、少しだけ分かってきました。車いすにのったときに安心してのれる人と、そうはいかない人がいました。手をはさんだらどうしようかと感じたこともありました。これからは、車いすにのった人とかを見つけたら、親切に何かを教えたり、ぶつかりそうになったらよけたりしたいと思いました。もっと車いすの人のことを考えたいと思います。

○　今日、車いす体験をして、はじめはウキウキしていました。だけど、車いすにのって動いてみたら、大変なことがいっぱいありました。段差があるとこと、スロープ、がたがたした道などのところがちょっと大変でした。学校のろうかなどを通ったときに、車いすだと右や左に曲がろうとするときにぶつかりそうになりました。そして、二人で体験のときは、○○さんとしました。一人での体験のときよりも、安心して動くことができました。あと、１年生の○○ちゃ

んも車いすを使っているから、手伝うことがちょっとでもあるなら手伝いたいです。あと、どこかに出かけて車いすの人がいたら、ちょっとでも声をかけてあげたいなあと思いました。

(2)高齢者とのふれあい

① 施設訪問Ⅰ

福祉体験講座の 1 つで、七山事業所への「施設訪問」を実施した。子どもたちは、今回の訪問に向けて話し合いをし、準備や練習をしてきたことをしっかりと生かして、それぞれが自分の役割を果たして交流会をスムーズに進めた。「けん玉や暗唱」には思わず拍手や歓声が上がり、「玉島クイズ」や「億万長者じゃんけんゲーム」にも楽しく参加していただいた。「肩もみ・お話」では、子どもたちの人数が少なくて十分に回ることができなかったが、肩もみをしながらいろいろとお話もすることができて、大変喜んでいただいたた。折り鶴のプレゼントを 1 人ずつにお渡しして、歌を贈る時には何人もの方が目頭を押さえて子どもたちの姿を見てくださっていた。子どもたちの発表やふれあいを喜んでいただき、そのことが子どもたちの心にも響き喜びにもなった。

≪授業後の児童の感想≫

○ めづらの学習で七山まで行きました。老人の方たちとふれあったりしました。発表やゲームや肩もみなどを笑顔で喜んでもらえて良かったです。最後は私が終わりの言葉を言えました。楽しかったです。

○ 今日の 5・6 時間目はしせつ訪問でした。初めてだったのできんちょうしました。だけど「あらすごい」とか「暗唱いっぱいおぼえてるね」とか言ってくれたので、勇気をもらえました。私のおじいちゃんおばあちゃんもいかないといけないことがあるかもしれないので、その時は連れていってあげたいです。

○ 今日、しせつ訪問がありました。いっぱいじゅんびをしていったので大成功でした。うれしかったです。また行くかもしれないのでその時もがんばりたいです。肩もみの時少しお話ができたのでうれしいです。楽しかったです。

②　施設訪問Ⅱ

七山事業所への施設訪問の後に、玉島地区にある施設からも「ぜひうちにも訪問して交流会を」という声をいただいた。そこで、施設訪問「第２弾」ということで、地域にある施設を訪問し交流をした。

≪授業後の児童の感想≫

○　今日の５時間目と６時間目はしせつ訪問でした。20 人くらいの人がおられました。けん玉も暗唱も自己しょうかいも上手に言えたのでよかったです。おばあちゃんやおじいさんも、にこにこしておられたのでうれしかったです。虫の声のハーモニカの方もすごかったです。

○　今日、しせつ訪問にいきました。きんちょうしてあつくもなったけど、がんばりました。玉島クイズは出番が少なかったけどがんばりました。「虫の声」を歌うときにハーモニカをふいてくれたのでうれしかったです。

８　取組の成果と課題

○　成果

・ いろいろな福祉体験活動を通して、それぞれの立場での生活の中にある大変さや苦労を実感し、望ましい介助や自分にできることを考えることができた。
・ 障害のある方や高齢者とのふれあいを通して、福祉や UD の大切さについて実感的に捉えることができた。

○　課題

・ UD 教育や福祉講座で学んだことを積極的に発信したり、学んだことを身近な生活に生かしたりする取り組みにつなげ、さらに深めていく必要がある。